The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	造形実習の教育効果について
Author(s)	三上, 英子
Citation	デザイン理論. 1992, 31, p. 80-81
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52793
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

造形実習の教育効果について

三上英子

デザイン教育は様々な分野，様々な角度からなされているが，私が担当する造形実習ではドレイピングを導入した実習を行っている。ここで用いるドレーピングとは，通常使われている立体裁断の意味ではなく，一枚布をカットせずにピンを用いて造形する Dreaped in fabric の意味である。実習では可能な限り素材を用い，それらの特性や表現を見極めて造形する中に，無限の可能性を追求する。そしてドレーピングのテクニックを高めることは勿論であるが，造形することにより各自の内在する感覚を揺すぶり，創造力を高め，表現力を養いより豊かな感性を磨くことを目的としている。

ディスプレイを主としたクラスと，服飾デザインを主としたクラスの授業内容を具体的に述べる。共に授業回数は13回～14回で１回約３時間半である。

ディスプレイを主としたクラスでは１ｍ～25m 以上の布を使ってマヌカンや身近にある机や椅子，壁面，更に空間に挑み，無から有を求めて自由奔放に造形させる。最初は四つ切りケント紙で作られた正立方体を使って２ｍの布を掛けたり，垂らしたり，とめたりして造形させる。この段階で学生が布素材の持つ魅力を感知し布のドレープ性や可塑性等の特性を知るよう導くと共にドレーピングの基礎的テクニックを把握させる。次いでマヌカンや壁面を使って面や線の面白さ，布の蔭影をねらった作品を作らせてデッサンさせる。遠近法や構図にも振れ，作品の良し悪しの見る目を養うことを目的として描かせる。また環境への関心を深めさせるために内１回は街に出て，そこに息吹く現在のファッションや色彩，ウインドウディスプレイ街行く人々建築等目にしたものを発表させる。明確に捉え自分の考えが適確に表現できるように誘導する。更に机の上や壁面を使ってウインドウディスプレイの練習をさせる。最後にデグスの使用法を教え，造形の場を空間へと広げる。広々とした空間に挑むとき，学生は戸惑い仲々着手しないが，布の一端を天井にとめると布がかもしだす表情や蔭影の美しさにひかれて興味をもって造形していく。学生達は作る喜びを味わい，思わぬ発想の閃きに自信を持って積極的に造形するようになる。或る時はテーマを与え，或る時は自由に造形させる。学生達は序々にデザインに深い関心を持つようになり，デザイン力を高め，発想力を啓発させていく。

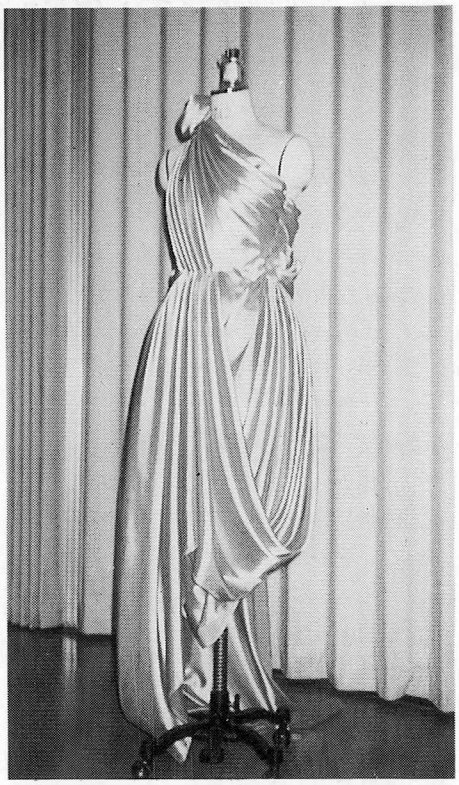
服飾デザインを主としたクラスでは，服飾構体としてマヌカンを使用し種々の布素材を用いてドレスイメージの作品をピンアップさせる。最初はボディを使い，ボディに布を只かけるより少し造形するだけで美しく変ることを示す。ピンのとめ方次第で変る布の表情，更に素材によって異る表情や手ざわり等それぞれの布の特性を各自の目で捉え肌で感じさせる。以後は１グループ３人に分け，マヌカンを使って作品を作る中にドレーピングの基本テクニックを把握させる。全グループが比較的美しい作品を作った時にデッサンをさせる。授業

時間の後半は，その日に指導したテクニックを使って自由作品を作らせる。マヌカンのポーズに合ったデザイン。布が余り過ぎた時の処理の工夫，また足りなくなった時のデザインのまとめ方など試行錯誤をする中に思わぬ美しさが現れる意欲を燃やし次々に積極的に造形していく。限られた教材の中ではあるが変化に富んだ素材を使って造形させる。最後はウェディングドレスをテーマとする。またデザイン画を描かせそのドレスをマヌカンにピンアップさせる。10m～18m の布を使ってＡ学生のはＢとＣ学生がピンアップをする。ＢとＣ学生についても同様である。そして次週は学生自身がモデルになる。一枚布を生身の体にピンアップするには相当の集中力とテクニックが要求されるが学生は今迄の成果を発揮する。30数名１つとして同じデザインの作品は見られず個性的で独創的な作品を作りあげる。

以上のように，ドレーピングを導入して，主としてディスプレイを，主として服飾デザインをと二方向から造形実習を行ってきたが，その結果短時間で作品の完成を見ることができるので数多くのデザインを試みることができるから，デザインを志す学生にとっては，短期間で表現力，創造力，発想の展開力が育くまれ，感性が磨かれるのではなかろうか。

みかみ・えいこ　京都女子大学(非)
1991. 12. 14　第26回被服分科会

ドレープ美しさを意図した学生作品



（ボディーとサテン地６ｍ使用）

（カーテンとマヌカン。キュプラ裏地25ｍ使用）